

## 支援物資の提供、ありがとうございました。

この度は、短い期間にも関わらず、予想を遥かに上回る物資を集める事ができました。何か出来ることをしたいと思う気持ちはみんな一緒なんだと感じましたし、皆さんの素早い対応に感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございました。また、仕分けて袋詰めする作業にも沢山の方に協力していただきました。現地の負担をほんの少しですが減らせたのではないかと考えています。重ねてお礼申し上げます。

集まった物資は16日大船渡サポートネットワークセンター（災害救助の方々为中心になって立ち上げた組織。裏面参照）の拠点「岩手県立福祉の里センター」に搬入してきました。ここでは届けられた物資は体育館でボランティアの人達によって仕分けされ、避難所の人達に配られるようです。

運び込まれている物資は衣類が多く、衣類(下着以外)は足りてきているようでしたが、それ以外ほとんど空のような状態で、まだまだ十分でないという印象を受けました。

ちょうど搬入しているときに、被災した90人ほどの部落で物資が不足しているとの連絡があり、運搬のお手伝いをさせていただきました。持ち込んだ物資は仕分け済みだったので、そのまま持って来た物資を積み込むことになり、一部ですが行き先を見届けることができました。



体育館



搬入先：岩手県立福祉の里センター



同行した部落。



現在は、親戚の家や支給されたテントに寝泊まりしているとのこと。寝たきり老人もこのテントの中に2人いる。



一ヶ月経ってもそのままの車と瓦礫。流されて来た物で、この部落のものではないらしい。

一時、90人の住民が津波の被害を受けなかった高台の三軒の家で生活していた（津波の届かなかった家は無傷）この家のすぐ下の家は骨組みだけは残っていて、入り込んだ土砂を老人が1人で運び出していた。



ここで炊事をし、ここで食事をしている。食料は偏ってはいるが支給されている。

ここが特別という訳ではなく、このような避難場所はいたるところにあり、被災された方々は大変な思いをされています。ここだけで、90名。今回の震災は信じられないくらい大規模で悲惨なものだと思いました。

被災地に必要なものは日々変化しています。衣食は足りてきました。次は何を支援したらいいのか、被災していないそれぞれが考えなければいけないのではないかと、思いながら帰ってきました。

# 大船渡サポートネットワーク・センター (OSN・C)

## 1. 設立背景

東日本大震災の地震津波の発生後、3月28日に大船渡の地元有志、並びに大船渡にゆかりのある仲間によって設立された任意団体です。

## 2. 目的

東日本大震災で、多くの尊い命が失われ、未だに多数の行方不明者の帰りを待っている家族が不安な日々を過ごしています。しかも、被災者自身がこの惨状の現実を受け入れられずに、不透明な将来に不安を抱えた現状に直面しています。

そのような中で、自らが被災者でありながら、お互いに助け合いの精神と、地元や全国にある絆を広めていく中で、様々な形での支援活動を目的とします。

## 3. 活動内容

- ・ 被災地大船渡市に関する情報の受け入れ、整理、必要情報の発信
- ・ 災害弱者（高齢者世帯・被災者受け入れの個別世帯等）への支援
- ・ 支援物資等の調達・運搬・管理・配送
- ・ ボランティアの受け入れ、活動協力
- ・ 未来を担う子供たちへの教育・スポーツ物資支援
- ・ 各ボランティア活動の情報の共有
- ・ 被災者及び支援者の心のケア
- ・ 被災地、被災者の声の日本中、世界中への発信
- ・ 復興に向けての必要な活動

## 4. 連絡先

鶴浦：090-7197-0504、unoura@ttaa.com

千葉：090-2367-9800、yoshi-6@themis.ocn.ne.jp

## 5. 物資搬送先

〒022-0006

岩手県大船渡市立根町字田ノ上30-20

c/o 岩手県立福祉の里センター 大船渡サポートネットワーク・センター宛  
(所長 戸羽 幸枝 0192-27-0294)

## 6. その他

営利目的ではなく、被災地大船渡をはじめ、周辺の地域の復興を目的とする団体であり、地元住民はもとより行政及び世界中の協力団体との連携を行います。